

Red Cross

函	第
架	第
號	第

赤き十字架架

本田憲之著述



東京 警醒社書店

225
474

特 9

020209-000-7

特30-972

赤き十字架

本田 憲之/著

M36

ABI-0008



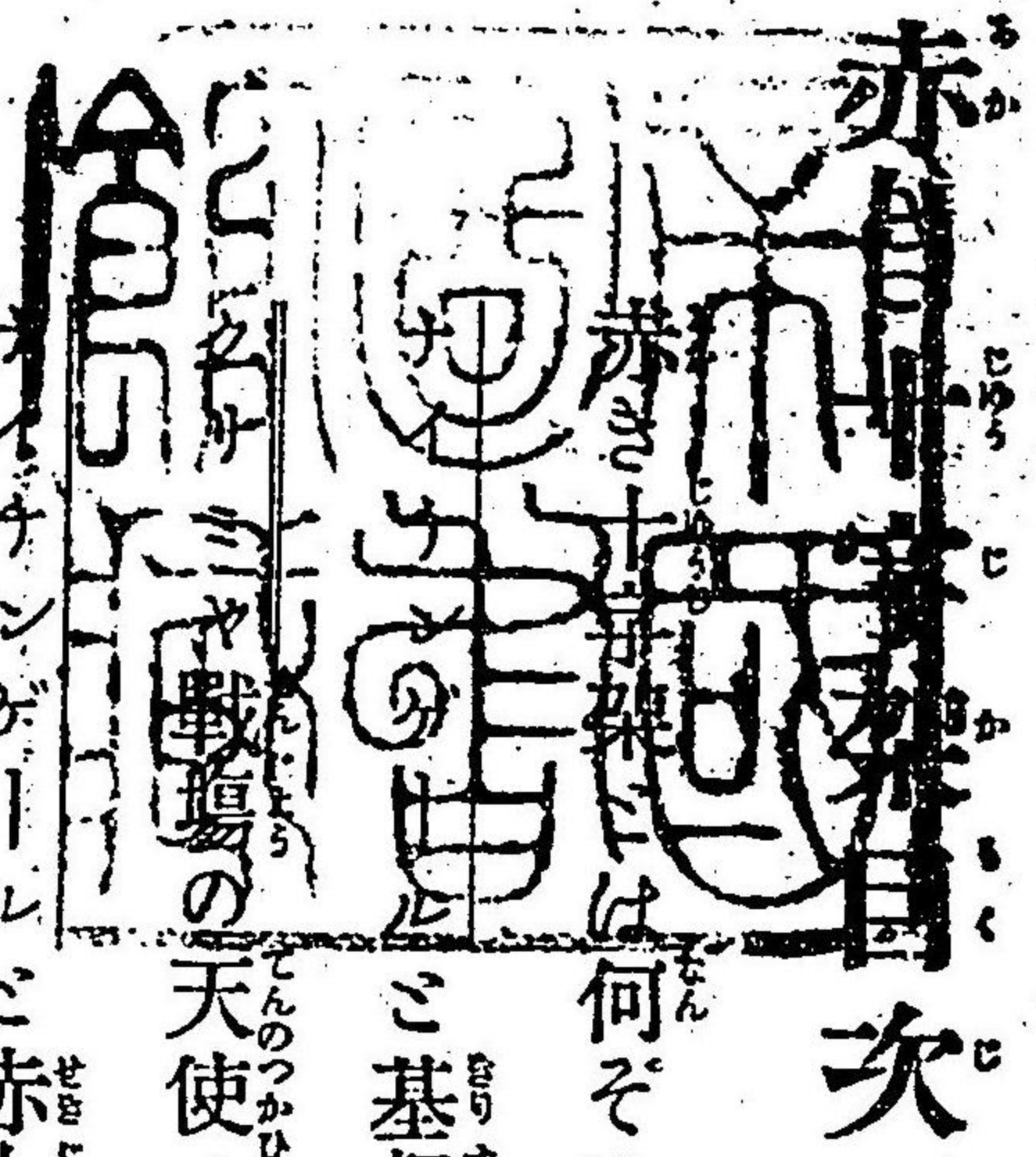
特30

972



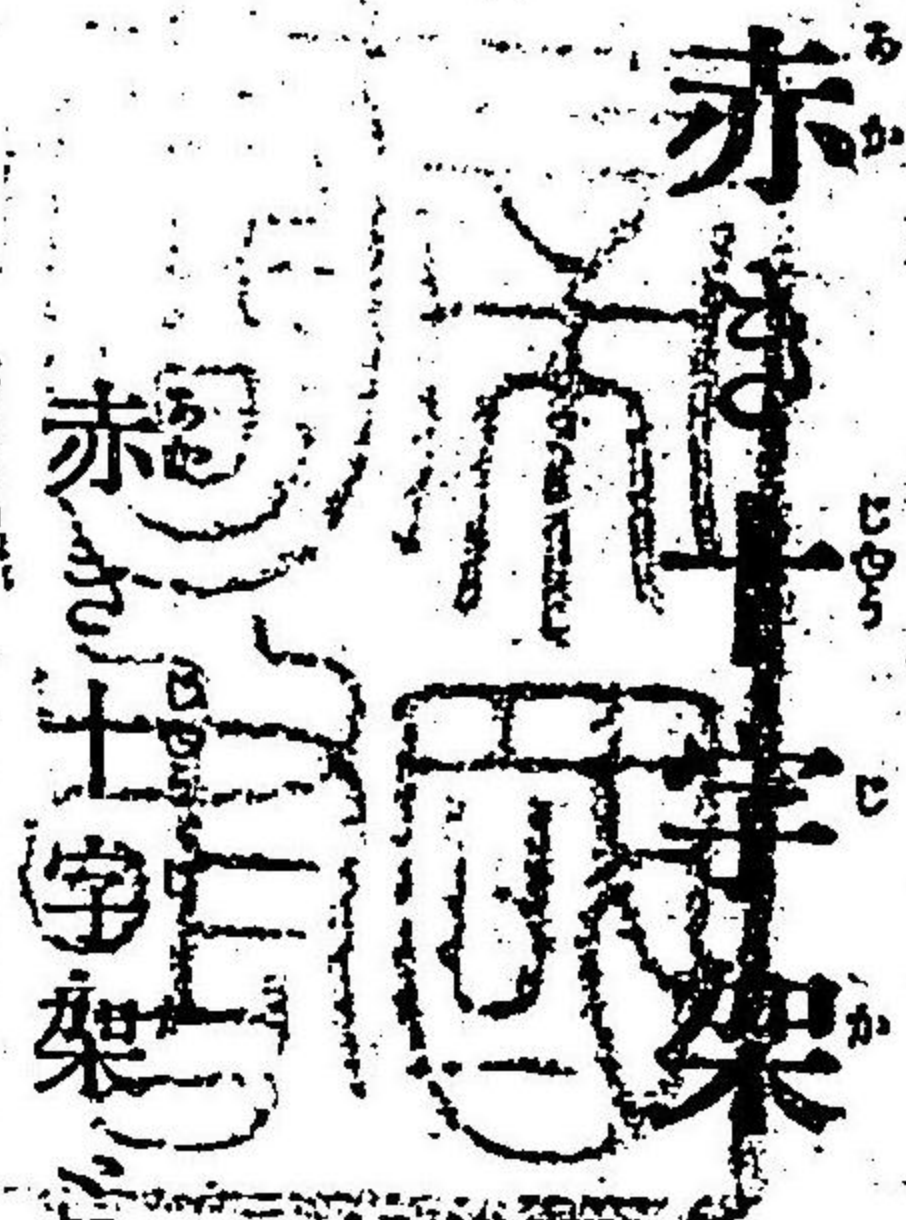
像肖嬬ルーゲンチイナ

赤 十 字 架



赤十字架は何ぞや.....	一頁
基督教.....	六頁
天使.....	一八頁
赤十字.....	三二頁
ナイナゲール.....	三八頁
博愛家デユナイナゲール.....	四四頁
キリスト教の愛.....	四四頁





赤十字架は何ぞや

本 田 憲 之 著

抑、赤十字架は何でありましやうか、赤とは血を意味したので
罪惡より救ふ爲に、犠牲となつて、十字架の上に流し給ひし、血の
事でありませう、そこでキリストの犠牲の十字架を指て、赤十字架
と申すのであります、此赤十字架は、全世界に於ける博愛慈善の
標準となつて、其働きに光明を與え、その精神に生命を與えつゝあ
るのであります、彼の萬國赤十字の起りたる精神も、その原因は即

赤十字架は何ぞや

ち赤き十字架の愛より出たのであります、人々が博愛的と云ふ事を、十字的と申しますのは、取不直キリストの十字架の愛を、標準としたる言葉であります。

聖書に曰く、我儕なほ弱かりし時キリスト定まりたる日に及て罪人のために死給へり、それ義人の爲に死るもの殆ど少なり仁者の爲に死る事を厭ざる者もやあらん、されどキリストは我儕のなほ罪人たる時われらの爲に死給へり神は之に由て其愛を彰し給ふ、(羅馬書五ノ六一八)。

赤十字の徽章は、その初めスイツル國の國章から取たので、地色と徽章を轉じて、白地に赤十字を染出したるを、徽章に定めてあるのであります、すべて十字の國章は瑞西國のみでなく、歐米の文明國は皆キリストの十字架を國章としてあります、而して國頭に翻がへ

し、政治も、法律も、教育も、此十字架の教へに基いて、眞正の文明的に行はれつゝあるのであります、斯の如くに歐米の文明は、赤き十字架の上になつてあるのであります。

今やキリストの十字架の愛は、遍く全世界に及び、その感化は凡ての博愛慈善事業となつて、各方面に向つて働きつゝあるのであります、故にその愛の感化は、獨り赤十字ばかりでは有ません、キリストの十字架の愛の感化は、孤兒院となり、貧民學校となり、養老院となり、救護院となり、慈善會となり、矯風會となり、禁酒會となり、救濟會となり、其他種々なる博愛慈善の事業となつて、全世界に働らきつゝあるのであります。

聖書に曰く、主は我儕の爲に生を捐たまへり是に由て愛と云ふ事を知たり我儕また兄弟の爲に生を捐べし、(約翰第壹書三ノ十六)。

赤き十字架は何ぞや

他の諸々の博愛慈善の事は、兎に角おきまして、多くの人の能く知らるゝ處の、フロレンス、ナイチンゲールを引きまして、キリストの赤き十字架の精神を述べよう、是最も易く諸君に悟覺らるゝ事と信するからであります。

基督が凡ての人類を罪惡より救はんとして、犠牲となり給ひし、十字架の愛が、ナイチンゲールを勵まし、ナイチンゲールの愛の働きがヂユナンを勵し、ヂユナンをして赤十字の主唱者たらしめ、而して今日の赤十字は彼に依て起つたのであります、此ヂユナンの愛の働きがモアニエルを勵して、現今の萬國赤十字中央社長たらしめたのであります。

多くの人はキリスト教の精神なる赤き十字架を知ずして、今も猶昔の考へを以て誤解をして居ますから、その思ふ處も云ふ處も大に事

實と齟齬いたします、然しながら明治の初めに、魔法と恐れし電信も、今日悟りて見ればまことに調法であります、疑ふ時は鬼となり、捕へて見れば祇園の火人であります、愛の根原なるキリストの赤き十字架も、悟得る時は精神の生命となるのであります。

聖書に曰く、それ十字架の教は沈淪者には愚なるもの、我儕救はるゝものには神の能力たるなり、(哥前一ノ八)

實に十字架の教は、世の人々には、賤しく愚に見えますが、我儕キリスト信者には、實に尊き精神の生命となり、能力となり、博愛慈善の標準となり、安心立命の基となるのであります、以下述る處のナイチンゲールに依て、その事實を悟られよかし。

ナイナングールと基督教

彼のフロレンス、ナイナングール嬢と人々が賞まして、戦場の天使、赤十字の女王と申しますが、何でありましたか、そも斯の如き清き乙女は、如何なる親より生れたのでありましたか、その子を知らんと欲せば、その父母を知れと云ふ諺があるように、嬢を知るには、先づその父母を知る事が必要と思ひます、亦人はすべて其信する所のものに依て、その人となりを知る事が出来ます。サテ彼の嬢の父は、イングランド洲の有名なる大地主で、その名をウヰリアム、ナイナングールと申しました、性質温和で、品性の高い、所謂紳士でありました、殊に慈善心に富み、常に矯風慈善事業に力を盡し、博愛の精神の深き人でありました、又母なる人はウヰリア

赤十字架

ム、スミスと云ふ、國會議員の娘でありました、此スミスと云ふ人は其當時奴隷解放論者として、名高き正義者でありました、而して此母なる人は、性質そのまゝ、父に似て、實に正義心の強い婦人でありました、斯の如き両親あつて彼嬢ある、是れ當然の事でありませうか。

一千八百二十年その父は妻と俱に、フロレンスの地に遊び、野邊の若草青々と萌え出る春の日に、百鳥の歌を聞きつゝ、一女子を其別荘に生みました、是れ即ちフロレンス、ナイナングール嬢であります、時に一千八百二十年五月十二日でありました、両親共に熱心なるキリスト信者でありましたから、嬢に前途の祝福を常に神に祈禱り、精神的教育におこたりなく、キリストの愛に導き、真に樂き家庭に養育されました、實にや家庭は大切であります、世に樂き家庭ほど

幸福のものはありますまい、樂しき家庭は所謂小天國であります、
 アー父たるもの母たるもの實に深く注意すべき事でありませぬか。
 聖書に曰く、蔬菜をくらひ互に愛するは、肥たる牛を食ふて互
 に恨むに愈る、(箴十五ノ十七)
 睦じうして一塊の乾けるパンあるは、争ひありて宰れる畜の盈
 たる家に愈る、(箴十七ノ一)
 彼嬢はその兩親の博愛慈善の精神に、早くも感化されました、また
 乳臭き幼児より、物の憐れを見て同情の念を起し、所謂愛の人とな
 りました、人形やおもちや動物などの手足や毛髪の損じを、あはれ
 がつて之を繕ひ、亦犬猫鳥などの病の時には、之が臥床を造り薬を
 飲せなど、懇切に撫はりました、此慈愛の精神はこれ敬神深き親よ
 り受たる愛の感化であります。

聖書に曰く、汝心を盡し精神を盡し力を盡して汝の神エホバを
 愛すべし、今日汝に命する是らの言はこれをその心にあらしめ、
 勤て汝の子等に教へ家に座する時も路を歩む時も寝る時も興る
 時もこれ語るべし、(申六ノ五、六、七)
 彼嬢は常に憐れなる近隣の貧家病家を見舞ふて、乏しきものには衣
 服食物をあたへ、病る者には薬餌をあたへ、或は撫はり、或は慰め
 ました、又知人友達の僕か下婢か小作人などに、病人のある事を聞
 く時は、直に遠方までも行きまして、之を慰め薬をあたへて介抱い
 たしました。
 彼嬢は高潔なる思想を以て、大に決心する處がありました、即ち妾
 の一生涯は不幸者の伴侶となりて、力を盡し、以て天の父(神)の聖旨
 に答へ奉つらん、是れを終生の慰樂とせん」と、これキリストの十字

架に習ひし、犠牲的の愛に外ありません、此愛の精神が、他日クリ
ミヤ戦争の時に幾萬の生命を救ひ、世にまれなる大功德をあらは
し、その名が高く知れたのであります。

彼リビングストンがアフリカに於ける勇しき働きも、ペーントンが人
食人の孤島に於ける愛の働きも、我日本國に於る凡ての宣教師の働
きも、是皆キリストの十字架より受たる、潔き犠牲的の愛に外ない
のであります、實にやナイチンゲールは愛の人でありました、その
愛があふれて、僕にも下婢にも小作人にも亦犬猫鳥にまでも、及ん
だのであります、これがキリストの意で亦キリスト信者の心であり
ます。

聖書に曰く、愛するものよ我儕互に相愛すべし愛は神より出れ
ばなりおほよそ愛ある者は神に由て生れ且神を識るなり、愛な

き者は神を識す神は即ち愛なれば也、(約第壹書四ノ七八)
我儕愛するに言と舌とを以て相愛する事なく行ひと實とを以て
すべし、(全書三ノ十八)

サテ彼嬢は後日神の聖旨に答へ奉らんとその精神から、英國中にある
慈善事業の實況を観察せんとの決心をいたしましたして、その父母と俱
にロンドンに出ました、然るに其當時のロンドンは今とは大に異
なして、中流以上は軽車や肥馬に乗駈り、今日は某の宴、明日は某
の會、ヤレ歌舞、ヤレ絃琴、ヤレ夜會と毎日毎夜の如くに、娛樂に
ふけり虚榮を好み、肉的樂しみに餘念なかつたのであります、彼嬢
はかゝる都會に出ながら少しも娛樂を欲せず、虚榮を張らず、驕奢
に交はらずして、獨諸所の病院貧民學校慈善院牢獄など、猥なく訪
問いたし、大に研究いたしました。

聖書に曰く、爾曹の裝飾は髪をくみ金を掛また衣を着るが如き外面の裝飾にあらず、たゞ心の内の隠れたる人すなはち壞ることなき柔和恬靜なる靈を以て裝飾とすべし此靈の裝飾は神の前に價貴きもの也、(彼前三ノ三、四)

嬢の觀察中最も遺憾に思ひし事は、當時の看護婦の病人に同情なき事、亦看護婦なる者が下等社會の婦人のみで、無學無智なる事、而して看護婦に飲酒の悪習ある事、看護婦とは名のみで、その實看護法を知らざる事などは、嬢をして劇しく感せしめたのでした、後日嬢が看護婦の大改良を計り、その範となつて、今日の看護婦あらしむるのは、當時の觀察からその志望を起したのでありましよう。紀元一千八百四十五年嬢の二十五歳の時に、父母と俱に獨逸佛蘭西伊太利などを旅行して、貧民學校病院盲啞院などを觀察いたしました

た、その後兩親の許しを得て、獨り旅裝を調へ獨逸國に渡航りまして、此國の「ルーテラン」大病院の附屬看護婦學校に、入校いたしました、此學校は獨逸國の有名な慈善家、基督教會の一牧師なるフリードリヒと云ふ人の、監督の下にありました。

嬢がフリードリヒ牧師に入校の許可を願ふた時に、牧師はつくづく嬢の容貌風采を眺めて、嬢に向ひ懇切に訓して申しまするに、「嬢よ御身の志は充分なれども、御身の躰には重荷すぎます、何せならば此學校は平民的で、御身の如き貴婦人は、到底躰力が耐へられなから、御氣毒ながら思ひ止めよ」と、そこで嬢は重ねて願ひました、「御訓しは一々御道理に存じます、されど其は己に覺悟の上、妾は深く決心する所があり、亦先生の名徳を慕ひ、遙々海を渡航て入校を願ふ次第であります、故に是非御許しください」と熱心誠意の言葉に、

牧師も大に感じさらば入校せられよと許しました。
 そも此看護婦學校は、普通下婢の如くに、諸々の荒仕事をなさねばならぬ規定でありました、もし之を耐へ忍ぶ事が出来ないならば、看護婦の勤務も亦到底遂ぐる事は、出来ないとしてあつたので有ます、故に嬢の如きその身は富豪に生れ、淑徳秀でたる者が、何を苦しんで斯の如き事にあたらんとするであろうか、普通の人から考へて見れば、甚敷好氣心とより外、思われません、乍然嬢の胸中には一片愛の熱情が、炎々焔の如くに燃へ上り、清き熱火は嬢をして甘んじて此深淵に落入らしめたのでありました。

聖書に曰く、我は我に力を予るキリストに因て諸の事を爲得るなり、(腓四ノ十三)

彼嬢は勇ましく千難萬苦に打勝て、首尾好此學校を卒業いたしましたし

た、その當時フリードチルが人に語つて申しまするに、一余は是迄數多の婦人を教育いたしたけれども、ナイチンゲールの如き完全なる看護婦の資格を備へ、拔群の優等にて卒業せしめた者は、前後に未だありませんと、嬢は欣然として師の許を辭しまして、直にフランスに行きパリ府の慈善姉妹病院に入り、その制度方法を研究いたしました、それから英國に歸り、最も樂しき家庭に入り、その父母と相互ひに喜び樂しみました。

ロンドンのハーレー街に慈善救濟院がありました、亦それに附屬したる看護婦學校がありました、然るに資財に事欲まして維持が付かなくなつて、將に廢院にならうとしてありました、折しも彼嬢は之を聞き、同情の念忽ち起り、同院の請ふが儘に、自ら監督の任に當りました、サテ先づ直に入用は資本であります、故に嬢は自家の資

産を投じてその費用に供し、辛苦經營しつゝ、忠實にその任に當る事三年、遂に面目を一新いたし、万事整理がつかまりました、然るに社會の同情は少なく、注目する人さへなかつたのであります、然し嬢はこれ神の爲同胞の爲なりとて、少しも屈せずして勵みました、或日親しき友垣に手紙を送つて申しまするに、

.....凡そ思慮の偏して意思の弱きは婦人の通弊にて候これが成功の一大弊害と存候故に婦人たるものは特に此點に留意誠心いたすべき事に存候.....事を爲すには必ず先づ事務の上にて一定の法則を立て之に従ふを要すべく存候然る上は我儕の神はその事業を祝福し給ふて成功疑ひなしと信じ申候若し何等の規準なく疎謀に事を始め候時は神は必ず脊を向け給ふ事と存候云々、と實にや此言葉は嬢の精神を寫し得て餘りあります、此精神此信仰

は他日その業を成功せしめ、遂に大功徳をあらはし得たのであります、嗚呼これ男子も亦恥る處でありますまいか。

聖書に曰く、録して義人は信仰に由て生べしと有が如し、(羅一ノ十八)

信仰なくば神を悦する事あたはず、(來十一ノ六) 嬢はその家庭に於て、慈愛の父母より、信仰の道を訓され、成長するに従ひその信仰は固くなり、愈々キリストの愛に感化され勵まされ、眞に善き信仰家であり、眞正のキリスト教信者でありました。

クリミヤ戦場の天使

赤 十 字 架

英國がウオートルローの大戦争に一大勝利の名譽を得て以來、爰に四十年絶て陣馬の音を聞く事なく、劍は賣て頓となし、鎧は化して貨物となり、人々太平樂を歌ふて昔を夢みつゝありし時、忽然戦ひの聲は英國民の頭に響きました、是即ちクリミヤ大激戦であります。一千八百五十四年四月二十二日英佛の聯合軍と、露軍との開戦は、オデッサと云ふ處に於て始りました、英軍はラグラン大將三萬人を率ゐて出陣し、佛軍はサン、アルノー大將五萬人を率ひて出陣いたしました、聯合軍は商議の上、露軍をクリミヤの地に打撃せんと一決いたしました、それより進軍中炎暑の爲に病死する者多く、漸やくにしてカナミタ灣に着いたのが、九月十四日でありました、こゝに

赤 十 字 架

上陸いたしました軍隊は其數、英軍二萬七千人佛軍三萬人土軍七千人、總軍六萬四千人でありました。彼等は實に精兵卒であります、その戦場に於ての働きは、忠勇義烈であります、然しながら憐れ彼等は寒暖と戦ひ、亦糧食の欠乏と戦はなければならなくなりました、當時運送の機關が至つて不完全であつた爲に、彼等は飢て食なく、凍えて衣服なく、遂に多くは病者となりました、然るに病みて病院なく、醫藥なく、看護人なく、實は一大悲痛に落りました。太刀取つて大君に仕る者、屍は海山に曝すとも、こは素よりの覺悟であります、然れど奮戦もせず、花々しき働きもせず、あたらしき生命をば、病魔の爲にはかなくも異郷の荒野に消えんとは、嗚呼その時の彼等の心事は、いかゞに有ましたであらうか、時しもク

リミヤの空は益々寒くなり、毎日曇がちで、風荒く黒海の浪高く、英軍の運送船は、アハヤ海中に沈みました。彼等は苦痛の内に毎日運送船の着くのを、「テント」の隙間から、眺めて待つて居たのであります。然るにその運送船が海中に沈み、糧食被服毛布器械醫藥などは、兵士を救はずして徒らに、黒海の沈底に沈んだとは、嗚呼實に陣營は全く殺風景となり、其「テント」さへ吹き破られて、悲惨の極に達しました。今は將どなく卒どなく、病死する者多くなり、生るものも身を切る計りの寒風に、膚を晒すばかりとはなりました。時に本國民は軍隊の整備と、全軍の勇敢とを聞いて、大に喜びつゝ、ありし處に、右の悲哀の通信は、「タイムス」新聞從軍記者ラッセルと云ふ人に依て、細かに報道されました。慘歎なる實況を細かに記し、而してその末尾に訴へて申しまするに。

……嗚呼此敵し難き氣候、抗すべからざる病魔は、如何に異郷の義士をして苦痛に泣かしむるかを思は、彼のロンドン街頭雨中に、たゞすむ乞食も亦兵士に比較する時は、王公の生活の如きならんかと思はる……枕を高ふして安臥せる古郷の諸君は、之を聞きて如何なる同情の涙を注ぎ給ふならんや。而して其他の新聞記者も又此慘狀を報道して、申すには、

スクタリ、バラクの兩病院に、已に入れられし病兵は、その數實に壹萬三千人、而してその死亡者の多き事は、スクタリ病院に於ては、百に對する四十二、バラク病院に於ては、百に對する五十二の死亡者なり、その悲鳴と嘆息とは實に身の毛も彌立ばかりなり云々。

クリミヤの慘情は毎日の新聞に報道されます、そこで英國婦人は、

男子のみに任せ置くべき者にあらずとて、大に奮起いたしました、時の陸軍大臣シドニー、ハーバートの活眼は、病兵を慰撫看護するには、婦人に若く者なき事を認めました、然し強壯の男子すら、斃れつゝある氣候汚悪の地に、軟弱の婦人が耐へ忍ぶ事の出来るであろうかと、ハーバートは考へつゝありました、蓋し英國婦人は氣丈で、看護婦の願書は幾通もなく、ハーバートの机上に集りました、そこで彼はその主宰者を求めんとて、全英國の婦人社會を見渡して、適任者を探しました。

静が夜一室に端坐して、沈思黙想に耽れる、品性高き一處女あつて、何事をかしきりに物思ひに沈みつゝ、手を交ぬき天の一方を眺めながら、玉なす涙ハラ／＼と潑がれた、是れ即ちフロレンス、ナイチンゲール嬢が、クリミヤの慘憺たる報道を聞いて、同情の念禁する能

はず、愛憐の心奮ひ起り、かよわき婦人の身にはあれど、一身を犠牲にして看護の任に當らんと決心をいたし、今静かに神に祈禱を捧げたのでありました、嗚呼嬢の涙ながらの熱き祈禱は、これぞ神の祝福し給ふ祈禱で、能力ある祈禱とは斯の如き祈禱を申します。

聖書に曰く、義人の篤き祈禱は力ある者なり、(雅五ノ十六)

なんぢら信じて祈禱らば求ふ所悉く得べし、(太廿一ノ廿二)

彼嬢は「ハンカチ」もて涙を拭ひながら、一通の書を認め、下婢に命じて他に齎しました、是ぞクリミヤ戦場の看護婦たらんとの請願書を、陸軍大臣に差出したのであります、實に嬢は犠牲的愛に満されたのであります、今や嬢はキリストが人間の罪惡の爲に、犠牲となり給ひし如くに、クリミヤ病兵の爲に献身犠牲とならんとするのであります。

恰も良しハアバートも亦同じく、依頼書を嬢に送られました、そ
 こで双方が同時に受取るようになりました、嬢は陸軍大臣の懇篤な
 依頼書に接して、喜び勇みつ神に感謝の祈禱を捧げました、亦ハ
 アバートは嬢よりの願書を得て、喜ぶ事限りなく、神に感謝して、
 オー神は忠勇なる我英國の將卒を捨て給はず、遂に慈母を與え
 てその悲鳴の内より救ふべき命を、彼女に下し給へる事を眞實
 に感謝し奉る、
 と而して直に嬢を招きまして、互に喜び握手いたしました、ハア
 バートは嬢に向ひ、「御身願くは此至難の業が、神の祝福に依て成遂
 げられ、是に依て婦人の位地が高くあがり、人道は更に一步を進め
 られん事を」と、彼の夫人も亦厚く待遇いたしました、數日の後一の
 布告は陸軍大臣より發布されました。

茲に政府はクリミヤ遠征隊の爲にフロレンス、ナイチンゲール嬢
 を以て、三十四名の看護婦の主長として彼地向はしめんとす、
 蓋し嬢の病院看護事務に熟練なる事、その統理に堪能にして諸
 人に優れたる事は本官の確認する所なり、且つ嬢が此尊貴にし
 て至難なる事業に當るや、献身犠牲を以て盡さんとするは、實
 に國家の爲に感謝する所なり。

一千八百五十四年十月二十一日

大英國陸軍大臣

シドニー、ハアバート

此布告の發布さるゝや、心ある國民は感涙を流して喜び、見識ある
 婦人は彼嬢の空前の新事業に率先したる事を賞賛し、此事が唯に英
 國婦人の美風を進むるばかりでなく、是より世界全國の婦人の位置

クリミヤ戦場の天使

を高くならしむる事として、大に喜びました、時に舊守的頑固家の連中は、罵り嘲り窃に悪結果を想像して居ました、然しながら女史等は冷笑されても、反對されても、少しも意にいたしません、只神の御聖旨に従ひ、献身犠牲の愛を行はんとするばかりであります、然り我國のキリスト信者も、如何に冷笑されても、反對されても、迫害されても、只神の御聖旨に従ひ、天皇陛下を愛し、我國を愛し同胞を愛して、献身犠牲の愛を盡さんとするばかりであります。

一千八百五十四年十月二十四日彼嬢は、篤志の看護婦三十四名と共に、故國を後にして戦場に出發いたしました、此三十四名の看護婦は、皆慈善家で勇氣に富みし婦人たちでありました、中には身分の尊い位の高い貴婦人もありました、白衣白帽の一行は到る處に歓迎

されて、スクタリーに着きこゝに上陸いたしました、此地は北方遙かにクリミヤと相對する地であります、一行の上陸するや直に彼女史等の目に映じたのは、野戦病院が凡そ二哩餘も屹然と立ちならんである事でありました、此時患者の數二千三百餘人、而して不潔と不整頓とは、殆ど言葉なき程で、惡臭鼻を撲つて其憐れさは、目もあてられぬ有様でありました、嗚呼此惨場は今やすべての監督を、彼嬢一人の手に任せられたのであります、嬢は將に事務に就かんとするや、三十四名の看護婦を一堂に集め、嚴なる訓令をいたしました、今や御身方の眼前に見らるゝ、忠勇義烈の將卒の生命は、吾等の手中に委ねられました、然しながら限ある力を以て限りなき患者を救はん事は誠に至難にはあれど、幸ひに同心一体至愛を以て之に當らば、如何で功なき事がありましようか、不敏なる

妻は病院衛生の二大任務を兩肩に負ひし事なれば、御身方の協力を借るでなくんば、何事をか爲し得られましよう、……………
吾等一同が此大任を盡し得て、目出度故國に歸るの日までは、御身方は何卒妾の手足となりて、神の御旨に従ひ至愛を以て、其任務を全ふせられよ、
と言ひ終るや、一同は大に感じ愈々相奮つて、同心一体の働きをなさんと、固く誓ひました。

聖書に曰く、喜ぶ者と共に喜び哀む者と共に哀むべし、相互に意を同ふし尊大志をなさず反つて卑微に附よ又自己を智とする勿れ、(羅十二ノ十五、十六)

彼女等は靜かに其光明的十字的事業に取掛りました、日ならずして病院は全く面目を新にし、整理が行き届きました、彼女等は専心一

意看護に従事いたし、甚だ親切で禮儀を失ひません、亦彼嬢は身体の虚弱なるにも拘らず、普く院内を巡視いたし、衣食醫藥の世話をいたすのみならず、患者の爲めに手紙を認め、或は貯金をその家族に送る手續きまで、能く世話をいたしました、そこで患者が嬢を見る恰も慈母を見る如くに有りました。

嗚呼嬢の院内に於ける實に多忙中にも、患者の苦痛を慰めんとして、常に聖書を手より離さず、之を患者に讀み聞かせ、或は説き聞かせ、或は患者の爲めに神に祈禱を捧げて、患者を慰めました、亦從軍牧師と俱に相談いたしまして、書籍室をもうけ、殊に説教室を設けて、患者に説教を聞かせなど、その潔き愛の働きこそ、實にやクリミヤ戦場の天使とは、彼嬢にふさわしき賞賛の辭であります、彼の「タイムス」新聞社より慰問者として、特に派遣されたるマクドナルド氏は、

嬢の院内に於ける有様を記して、

病危篤にして將に死んとする患者ある時は、必ず其側に佇立める一婦人あり、彼が面には慈愛の心満ちあふれ、臨終の時に、もだへ苦しむ患者これを見れば、大に慰めを受るもの、如し、實に彼女をこそ、當院を看護天使と云ふも、決して溢美にあらざるべし、……小夜更けて何の物音もなき静夜に、白帽白衣の高潔なる彼女は、唯獨り小さき「ランプ」を手にして各室内を巡廻するさまは、實に眞婦人、貴女の風采を有し居れり。
と然り嬢は平素重き患者の身も心も勞れはて、其苦悶の爲に殆ど人事を失ひたる者さへも、嬢がその側に立て之を慰め、亦聖書を讀み聞かする時に、彼は苦痛を忘れ新に生氣を得たるもの、如くに喜びました、嗚呼實に戦場の天使とは彼嬢の美名であります。

聖書に曰く、矜恤ある者は福なり其人は矜恤を得べければなり、

(太五ノ七)

右の聖書の句は、後日英國女皇陛下より、宸筆の感謝狀にそへて、燦爛たる寶玉を下賜し給ひし、其寶玉に記されたる聖句であります。

ナイチンゲールと赤十字

翌年の春彼嬢は更に黒海を渡り、バラクの野戦病院を見舞ひ、爰に看護部を設置いたし、院内の整理に着手いたし、こゝも亦スクタリと同じように、整理いたし、専心一意働きたつゝありましたが、嗚呼アハン彼嬢は猛烈なる熱病に罹り、殆ど危き場合となりました、そこで人々は大に驚きその身を氣遣ひ頻りに歸國を勧めました、然しながら嬢は頑として聞き入らず、

妾は苟も政府の信任を忝なふし、大任を負ひし身にあれば輕々しく此地を去る事は出来ません、一朝病魔の爲めに此荒野に於て永き眠につく事あることも、凡ての事は神の聖旨にまかせ奉つるのみ、妾の歸國はロンドン街頭に、凱旋の「ラツパ」の轟くその

時であります。

と彼嬢の病を聞き知し、看護婦、將校、兵卒、從軍者等は、一心に嬢の回復を天の神に祈りました、嗚呼喜ぶべし嬢の病は幾日も經ずして、意外に早く癒えました、そこで諸人の喜び言ん方なく、皆々神に感謝いたしました、それより嬢は患者を見舞ひ、或は慰め、或は聖書を読み聞かせなど、以前と少しも變りなく萬事萬端世話いたしました、嬢の戦地に居る事殆ど二年でありました。

一千八百五十六年八月十五日は名譽の遠征隊が、大勝利を得て歸國いたしたる日であります、英國民は勇烈の兵士を迎ふると同時に、白帽白衣の看護隊を歓迎せんとて、盛にその用意をいたしました、而して彼嬢の満足の笑顔を見ればやど、待ちに待つたる嬢は影だに見えませんが、ロンドン市民は拍子抜けをして、失望の餘りに不平を言

ふ者さへありました。

謙遜なる彼嬢は上陸するや否や、忍び歩きに密々ど、懐しき父母の許に歸りました、或人が嬢の謙遜が却つて英國民の惡感情を引き起した事を語りました、其時嬢は答へて、

その御心ざしは嬉しく忝なく存じますが、妾は只女の務めを盡したばかりであります、況して此度は妾一人の働きではありません、一行同志の姉妹も同じ様に働かれました、然るを人様は妾一人の手柄のように思召給ふは、誠に心苦しく存じます、殊に忠勇義烈の武士にも増して、其用意を厚ふし給ふを聞いては、如何で得々として其歡迎を受られましようか。

と實にや嬢の潔白なる精神、虚榮を避けて恭謙なるを、人々は何日となく聞き傳へ、その高德に感じ益々賞賛いたしました、トルコ國、

皇帝陛下は、嬢の功徳を愛給ひて、寶石を鑲めたる珍奇の腕環を下賜せられました。

英國女皇陛下は、彼嬢の未曾有の偉功を嘉し給ふて、バルモラルの離宮に休憩の室を興え、そこに謁見あらせられ、懇切なる感謝状に、燦爛たる寶玉を下賜せられました、其寶玉には、上部に「ダイヤモンド」にて王冠と三個の星の形とを鑲め、其周圍には、アルベルト親王殿下の、書せ給へる聖書の句、「矜恤ある者は福なり其人は矜恤を得べければ也」の文字を記させ給ひ、下部には青玉をもて「クリミヤ」の語を記させ、その中央には、(十字架と女皇陛下の名を刻まれたる、光彩眩映高貴の品でありました、嗚呼十字架、その中央に刻まれたる十字架、これぞ嬢の精神であります、嬢の愛も、柔和も、謙遜も、すべての徳は此犠牲の十字架より學び得たのであります、而

して此十字的博愛が後日全世界に發表さるゝようになつたのであります。

聖書に曰く、若しわれに従がはんと欲ふ者は己を棄その十字架を負て我に従へ、(太十六ノ二十四)

陸軍大臣シドニー、ハーバートは世人の非難に抗して、彼嬢を撰び出し、嬢に全權を委ねしに、大勳功を奏して歸國せしを見ては、その喜び云はん方なく、國會議事堂に於て、

予は敬愛なるナイチンゲール嬢の偉大なる勳功に向つて、賞賛する言葉がない、限りある言葉を以て、限りなきの功徳をほむる事は出来ないであります、………實に神は、我等臣民を救はんとして、彼女の手を借せ給ひし事を信じて、只神の恩愛を讃美するのみであります云々、

と述べ終るや議員一同は、篤き感謝の同意を表して、起立いたしました、英國民の醜金五萬圓を始め、感謝狀進物は、積みて山の如くなり、政府は五十萬圓を送つて、その戦功を賞しました、彼嬢はこれらの金品を、壹錢だも私費せずして、ロンドンセント、トマス病院に附屬したる、看護婦學校を建築いたしました、これ即ちナイチンゲール看護婦學校であります、英國ロンドン市中に、人目立つて見ゆる所の、大理石を交へたる煉瓦造りの大建築は、今尙セント、トマス病院内に建つてあります、斯の如き嬢の献身的愛の働きは、幾萬の命を救ひ、軍隊衛生に附て、又戦地看護に附ての實例を、全世界にしめしたるのみならず、嬢に由て播れたる、(愛の種子)は、後日誰に由て水を、がれ、土かわれて、遂に如何なる善き實を結びしやは、次篇にて悟得られん事を。

博愛家ヂュナンとナイチンゲール

スイツル國にヂュネーヴと云ふ湖水があつて、其水の將にローン河に入らんとする所に、一都府があります、その名を湖水と同じういたします、此都府は第十六世紀の初年に、基督教の大家カルピンの住みし所であり、博愛家ヂュナンは實に此地に生れました、時に一千八百二十八年三月八日、彼のナイチンゲール嬢におくる、事正に九年でありました。

彼の父は舊貴族で仁愛深き人でありました、母は慈善心に富みたる貴婦人でありました、嗚呼この善き両親あつて此博愛兒ある、亦以て家庭の如何に大切なるかを知る事が出来ます、彼は常に人に語つて、「我が善行は是れ母の愛の化身なり」と、申しました、世の父たる

者母たる者の、眞に注意すべき事でありました。

彼は十八歳の時に救貧院の會員となり、懇切に院務に従事いたしました、彼れの二十一歳の時に愈々決心する所がありました、即ち博愛慈善の爲に一生涯を献身せんとすの、實に潔き決心でありました、此高潔なる決心が、彼嬢の高潔なる志望を受繼て、遂に全世界に愛の花を咲かせ、美果を結ばしめたのであります、一千八百七十二年ロンドンの演説會に於て、ヂュナンの演説中に、

……予が一千八百五十九年の伊埃の戦地に赴きましたのも、全くナイチンゲール嬢の愛の働きに、感激されたのであります、予が將に爲さんとする事は、彼女の好先例に従ふのみであります、す、見よや茲に掲ぐる畫幅は、これ彼女がクリミヤ戰場に、救濟看護の女將軍として、慘憺たる兵士をば、スクタリ、バラク

博愛家ヂュナンとナイチンゲール

の野戦病院に於て、救ひ上げた當時の嬢の畫像であります、ア、吾等が嬢の像を仰いで見る時は、感奮興起一生を博愛慈善の爲に、犠牲となさざるを得ないのであります。

是れ所謂キリストの愛がナイチンゲールを勵まし、ナイチンゲールの愛がヂュナンを勵ましたのであります、ヂュナンが伊塙の戦場に於る愛の働きは、實に目醒しき働きでありました、彼は片手に鐵筆片手に藥瓶を握つて、暴雨慘風の中に凛然として立ち、敵味方なく一視同仁の愛を以て、修羅の巷に倒れ苦しみつゝ居る兵士をば救ひ上げたのであります。

彼は此經驗により戦時に於る局外中立神聖にして犯すべからざる病傷救護所の必要を感じ、萬國聯合して商議の上、締結せしめん事を決心いたしました、嗚呼實に萬國赤十字社は斯くして起つたのであ

ります、實にや彼嬢が播きし愛の種子は、今やヂュナンの手に依て水そゝがれ土かわれ、日を逐ひ月を重ねて、葉繁り枝榮へ、成長して遂に美果を結ぶようになりました。

彼は此企畫の爲に東奔西走、或は皇帝を或は同情の士を或は有力の大家を訪問いたして、大に同情を得ました、殊に「ヂュネーヴ公益協會の會長モアニエル(現今の萬國赤十字中央社長)は、ヂュナンの愛の働きに大に感じ、同意いたしましたして、其計畫を實行せしめんが爲に、同協會に専務委員を置きました、そこで彼は益々勢力を得て、諸國を遊歴し、王宮の間を奔走し、公卿に説き、市民に諭し、愈々益々同情を得ました。

彼は遊歴中到處に於て、(赤十字の旗)を押立て、歡迎されました、是れ即ち彼れが戦場に於て、常に使用いたしました處の旗章で、所

謂キリストの十字架を以て意匠としたる、自國の旗章から取たのであります、かくて彼れの熱心なる遊説は、其功空からず、英、佛、
 奥、西、典、瑞、和、普の諸國から、各代表者として來會せる者、
 三十六名ありました、そこで一千八百六十三年六月三日「ヂュネヅ公
 益協會」會長「モアニエル」を議長として、公益協會委員の編纂いたしま
 した議案と、ベルリン政府から提出された法案を基として、討議い
 たし、茲に赤十字社は目出度成立いたしましたのであります。
 それから着々歩を進め効を奏して、遂に一千八百六十四年八月八日
 十六ヶ國の代表者は、再び「ヂュネヅ」に集會いたし、十五日間の會
 議が開かれ、彼れが志望を起してより七年目に、その精神の通りに、
 萬國赤十字同盟は全く結ばれました、我國も 天皇陛下 のありが
 たき、おぼしめしにより、夙に赤十字同盟に加入いたし、其公書と

てし發布されたのが、明治十五年十二月十五日でありました。

キリスト教の愛

サテ基督教の愛とは何でありましょうが、茲に基督教の愛を述るに當り、先づ其愛の何たるを、説明いたさねばなりません、キリスト教の愛は、世の普通稱ふる處の愛とは、大に其趣を異にする所があります、故に通俗用ゐる處の可愛がるの謂ではありません、二三才の小兒を愛する、少女を愛すると云ふ事は、一旦成長し容色衰へ、其愛すべき點がなくなり、以前と變つた時は、其愛も亦變動いたします、キリスト教の愛は、斯の如き外形の變化に由て變するものでもありません、亦男女の愛所謂戀なるもの、謂ではありません、今日の社會は、愛なる文字をば一種劣等の意味に用ゐられてありますが、キリスト教の愛は、肉慾的情慾的のものでありません、亦報酬的の

赤き十字架

愛でもありません、たとへば彼は我が安否を問ふ故に我れも彼の安否を問ひ、彼れは我れを愛するが故に我れも彼を愛すると云ふが如きは、所謂商賣主義であつて、キリスト教の愛は斯の如き愛ではありません、亦骨肉の愛でもありません、親子愛し兄弟愛し親族愛するると云ふ事は、これは人間自然の情であつて、當然の事であり、以上述べたる如き愛は、善人のみでなく、惡人でさへも猶ある所の愛であります、斯く申さばキリスト教の愛は萬人の義理人情に反對する不合理のものであるかと、云ふ人もあります、否々決して然らず、キリスト教の愛は、人間の眞實の義理人情に合ひ、亦之を全ふするものであります、即ち骨肉の親しみを深くし、兄弟友達の愛を厚ふし、男女の愛を潔くするものであります、故にキリスト教の愛は以上述べし如き愛を純潔にし、而してそれに美德を與ふるも

のであります。

キリスト教の愛は、自分に與する者を愛するのみならず、未だ識らざる同胞も、剩さへ自分を惡み自分を害し自分に反對する敵をも愛して善を行はんとする、實に進歩的勝利的精神的の愛であります、此愛の標準は、主イエス、キリストが萬民の爲に、しかも我儕道徳上の罪人の爲に、生命を捐て給ひし、献身犠牲の愛であります、此愛あつてこそ敵味方の差別なく、一視同仁の働きは出来るのであります。

此高潔なる愛は何處より來るでありません、此愛は愛なき自己より發する事は出来ません、亦愛なき他人の心より生れ出る事も出来ません、無は有を生せず、生命は獨り生命より來ると云ふ事は、千古不易の眞理であります、故に高潔なる愛は、愛の泉なる、生命

の大源なる、神より來るの外ないのであります、神は愛であります、神先づ我儕を愛し給ふてふ原因あつて、我儕互に愛するてふ結果の生ずるのであります。

聖書に曰く、神は其獨子を賜ふほどに世の人を愛し給へりと、蓋し神は此罪惡の世界、此牧ふ者なき群羊の民、此墮落たる、此惘然なる、此滅亡んとする、吾等人類の状態を眺め給ふて、之を救はんとの至慈至愛より、遂にその獨子キリストを此世に降し、給へりとの義であります、此天父の愛と、人類の墮落を救ふ爲に己れの身を十字架の上に犠牲となり給ひし、キリストの愛より、大且つ潔き愛がありましようか、此絶大絶高の愛を仰ぎ信するもの、誰か其愛に感化されて、博愛慈善の義心を奮起せざる者がありましようか。嗚呼天下に愛より大なるものはありません、全世界愛より慕はしき

ものはありません、世上愛より樂しきものはありません、神は愛であります、故に神は此が爲にキリストを此世に降し、キリストは此が爲に十字架に懸り血を流し給ふたのであります、實に愛は人間衆徳の帯であります、心中に愛あれば、以て君に忠となり、以て父母に孝となり、以て兄弟に悌となり、以て朋友に信となるのであります、愛なき時は百善皆虚偽に陥り、その善行は生命なきものとなります、蘇國の大學者ドラモント氏は「世界最大のものは愛なり」と斷言いたしました、實に此最大の愛には、天下何物をも之に比すべきものはありません、故に如何なる博愛如何なる慈善にても、此愛キリストの犠牲的愛なき時は、即ち表面の名あるのみで、その實なきものであります、
今や我國民の正義心は瘦せ、道德心は衰へ、邪曲は盛んに行はれ、

名利は彌こり、偽善は時めき、人心益々腐りつゝあるの今日、實に要すべきは赤き十字架の精神であります、オー讀者諸君が眞面目に自己を省み、我國同胞の眞状を想ひたまへ、而して今や最も要すべきは、至誠至愛の生命なる、博愛慈善の標準なる、赤き十字架である事を悟りたまへ。

聖書に曰く、假令われ諸の人の言および天使の言を語ることも若し愛なくば鳴銅や響鉦の如し、假令われ預言するの能あり又すべての奥義と諸の學術に達し又山を移すほどなる諸の信仰ありと雖も若し愛なくば數るに足ぬ者なり、假令われ我すべての所有を施し又焚るゝ爲に我身を予ふることも若し愛なくば我に益なし。(哥前十三ノ一一三)

赤あか十じゅうじ字架か完

明治三十六年十一月五日印刷
明治三十六年十一月八日發行



著 者

本 田 憲 之

發 行 者

福 永 文 之 助

印 刷 者

村 岡 平 吉

發 行 所

警 醒 社 書 店

印 刷 所

福 音 印 刷 合 資 會 社

東京市京橋區尾張町二丁目十五番地

橫濱市太田町五丁目八十七番地

東京市京橋區尾張町二丁目十五番地

橫濱市山下町八十一番地

ニコル著 柏井園譯

○基督傳

世に基督傳少からず、然れども、普通人間の傳記と異り、最も慎重に、最も敬虔ならざる可らざるが故に、記者の筆先づ溢り、遂に其眞を得ざるの憾あるもの、往々にして然り、此書は英國大博士ロポルトン、ニコル氏の傑作「化身の救主」を、柏井氏が流麗なる筆を以て翻譯せしもの、其思想、其結構、其觀察、偏に讀者の判断に任す、附するに諸大家の筆になりし、基督一代の繪畫二十有五を添ふ。

○基督傳記

疑惑の雲は教會を圍み、冷淡の風は信徒を吹き、猜疑の徒また相煽揚して以て之を妨げんとす、基督の教に對する現今の狀態に是なり、著者は此狀態を耶蘇の品性の誤解せらるゝが爲なりと断じ、慨然基督の生涯を一般の人に説明せんとして、此書を見るべし。平易にして明晰、以て基督の一斑を見るべし。

○基督實錄

基督の實傳と其教理とを説明したるものなり

○耶蘇の教訓

原著者云ふ「若し予が此書に命名するに『神學の革命』と云ふが如き題號を以てしたらんには、世人の感想を聳動するべし、一層深く、教會も亦之に注意するべし、多かるべし、又云ふ「予は希望す、イエスに聽け」といふ、以て本書の内容を知るべし。

○基督眞論

主イエスが猶太人に「爾曹キリストに就て如何に思ふや」と問はれたる問題は、尙今日吾等の前に横はる著者基督論を研究する所あり、年あり、此書は研究の餘に發する思想混沌の際、暗夜の燈明たるを得ん。

○基督論集

雜誌「新人」にあらはれたる海老名正氏の「三位一體の教義と予が宗敎意識」と之の對する諸名家の精嚴なる批評とをجمعしたるもの、所論該博、雄健、現時の基督論を知らんと欲するもの、坐右の珍なり。

ストーカル原著 植村正久譯

○基督の姿

「ストーカル氏はグラスゴウ府の良牧師にして、謹嚴剛毅謙遜に基督の性行を探究せしなり、其著書世に行はるもの少からず、就中此基督の姿は、觀察精を究め、條理明晰、行文典雅簡潔にして、敬神愛人の氣紙上に充塞せり、故を以て、世人大に之を贊嘆して、基督教徒處世の榮之に優るものなしとせり」

○耶蘇の非凡

二書共に米國神學博士ニユーマン、スマイス氏の著す處のオールド、フエー、スマイス、ユイー、ライスの中より抄譯せしもの、以て基督の神性を知悉せしめ、以て基督に於ける眞の信仰を養ふに足るべし。

○福音入門

基督の福音傳と其生涯一覽と諸大家の論評一斑を含む福音初學に與ふる便益少からざるべし

○基督教とは何ぞや

此書はハリーナック博士が一八九九年の末より翌年の始に至る冬期間、伯林大學生に向ひ、基督の要點に關して、講演せられたるものを高木神學士が眞率なる筆に譯述し、間々譯者の評論と註釋とを以てせるものなり、議論創始的にして、思想深遠、文理明白、加ふるに津々たる靈的趣味を以てす。カライルの所謂宗教混濁の時代は未だ世界を去らずして、本日の如き書は殊に其著しきを見る、此時に此の如き書は出づれば、疑はざる所なり、道に迷ふ問題に志せらるる學生も一度其講演に侍して、一讀し、懐疑的學生も一度其講演に侍して、一讀し、社言の虚ならざるを諒せられよ。

○基督の根據

三谷久太郎著

○基督の根據

此書は、著者多年修養鍊磨せる信仰と思想との結果にして、神、人、イエスの救等基督の眞髓を論じたるもの、實地傳道の際になり、故に、更らに幾層の價值を加へたり。

松村介石著

○**総合的基督教** 定價 十二錢
本書は教徒間の誤解、又は教外の人に起る誤解を防ぐ爲め、種々の方面より基督教を説論したるもの。

目次 ○非世俗的基督教 ○福音的基督教 ○修身的基督教 ○社會的基督教 ○國家的基督教 ○學術的基督教 ○神秘的基督教

嶋貫兵太夫著

○**福音の勧め** 定價 二十錢
間稿を改めて、大舉傳道用に寄附せんが爲めに、編輯せるもの、世の各種類の人々の聞き度諸點を簡明に編述せんが爲め、何分にも問題を多くして、何分にも短文を主とせるもの、矛盾の事なきを期したるを以て、一讀せば前後督教の一般を了解するを得べし。

大藏將英著
○**耶穌教活論** 定價 二十五錢
目次 ○耶穌教の本領 ○耶穌教の餘弊 ○個人に於ける耶穌教の必要 ○國家に於ける耶穌教の必要

共勵會懸賞冊子
○**吃驚し給ふな** 定價 二錢
是れ一人の改信より、其一家友人等までも救はれたる話を平易に面白く記述せしものなり
横井時雄譯

○**世界最大のもの** 定價 七錢
本書は原著者ヘンリ、ドラマモンド先生が、大のものは、信仰にまさりて愛なるを詳論したるものなり、愛の最上善事たる理由は、何時までも墮つることなくして、自然の理に於て愛は即ち永遠の生命なればなり、是れ此書の要旨にして、哥林多前書十三章最良の註解なり。

松村介石著
○**信仰の道** 定價 八錢
○人生 ○罪惡 ○苦勞 ○安心立命 ○未來 ○神

○**人生の三問題** 定價 二錢
天父の存在、救主なるイエス、未來の世界の三問題を平易に面白く記述せしものなり。

田川大吉郎著

○**國運の基督教** 定價 十五錢
國運の進歩、第二維新、之を爲すものは基督教ならざる可らざるを論じたるものなり。

○**基督教三綱領** 定價 六錢
神、罪、救の三綱に就て最も分り易く記したるものにて、未信者に對し耶穌教の手引には最良の書なるべし。

横井時雄 原田助合著
○**日本の基督教** 定價 八錢
儒教、佛敎は既に其の天職をなし終りて、彼等の時代は過去たり、此時に當り若し、基督教我邦の宗教たらんとするに於ては、其我邦從來の道徳思想に及ばず影響果して如何、本書は此熟慮すべき問題に答へんとして成れり

平岩愷保著
○**我國基督教** 定價 六錢
基督教は我國體と相戻らず、反て之を維持し、發揚し、其精華を發揮するものなるを述べたる書なり。

オルチン 石橋爲之助合著
○**ほととぎす** 定價 二錢
此物語は放蕩息子の話とて、往昔基督が説き給ひし(路加傳一五〇一一、以下)所を敷演したるものなり。

内村鑑三述
○**後世への最大遺物** 定價 五錢
嘗て箱根の夏季學校に於て、談話したるもの、説く處人生の最高問題に涉り、志士の熟考を促すに足る者多し。

村田勤著
○**救の門** 定價 三錢
人生の快樂何處にありや、耶穌教は萬民の道、基督は救の門、基督は何人ぞや、四章救の道の何なるやを解せしむ。

○**十字架と果して迷信乎** 定價 三錢
日本博士は基督教の信仰を迷信と云ふ、千九百年に渉る大事實が迷信なりとせば、迷信も亦尊重すべきかな、著者豈此世の小さき智者はんが爲らんとや、吾等平民を蛇の誘惑より救はんが爲らんとや。

小崎弘道著

○信仰の理由

有神論、證據論等の我國の必要に適應する書
少なきを以て、著者が平生用ゆる所の證據論
の要點を平易に記述したるもの、求道者を導
くに於て、補益少からざるを期す。

定價二十五錢
郵税二錢

村田勤著

○救の手引

共勵會 定價二二錢
懸賞冊子 郵税二錢
悲哀ある者、憂愁ある者、苦痛ある者、潔め
救はれんとを願ふ者等をイエスキリストに導
かんとはれ此書の願なり。

定價二二錢
郵税二錢

○世界的宗教

何程人間が文明に進步するも、宗教を要せざ
る時代來らざると、基督教は道徳上信仰上に
於て完全絶對にして又世界的なる等を説明し
たるは此冊子なり。

定價二二錢
郵税二錢

○宗教の必要

著者日本に宗教不必要論多きを慨し、其來る
べき前途を憂ひ、數格に分ちて宗教の必要を
論じたるもの。

定價二二錢
郵税二錢

デフォレスト著

○近世文藝基督教

泰西文明の花のみを見て、其幹其根の何たる
を知らざる者多き今日、其根幹の何にあるや
を明にするを要する切なり、此書は之を充た
すの一たるに價す。

定價二二錢
郵税二錢

松村介石著

○道人

「汝等基督の心を以て心とせよ」とは、聖書の
命する所なり、然らば基督の心とは如何、本
書の之に答へて、詳細に引て眞誠の豪傑、信者
の覺悟、我國の現狀等に論及したるものなり。

定價十二錢
郵税二錢

○眞教要論

基督教の眞教なるを論せしもの、求道者に最
も有益なる書なり。

定價六錢
郵税二錢

○使徒保羅の改信

アルブレクト著
基督の復活と、使徒保羅の改信とは、基督教
歴史的根據の二大圓柱なり、著者其一をとり
て精確に論証し、殆んど遺漏あるを見ず。

定價七錢
郵税二錢

